

体育分野における授業の効果的な指導法 指導形態や場の工夫

I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、体育分野における授業の効果的な指導法に視点をあて、個々の身体能力に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力を育成すること。筋道を立てて練習や作戦を考え改善方法などを互いに話しあう活動などを通じて、論理的思考力を育成するため、「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。本年度も「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) 先進校の実践（資料）や各校での実践を通して情報交換を行い、研究していく。

2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。
〔11月「武道」（柔道）山梨南中学校 樋 泉生教諭〕
〔2月「ハンドボール」松 里中学校 清水佐知子教諭〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

3 授業実践：1

- (1) 単元名 球技「武道」（柔道）中学1年生
- (2) 授業者 山梨南中学校 樋 泉生教諭（講師 中澤 進先生）
- (3) 指導構想
「武道（柔道）の楽しさを味わい、確かな技能・知識の定着と
向上を目指す学習指導法の実践的研究」
～地域との連携を図り、学習活動における指導の工夫と評価の実践を通して～
- (4) 指導形態の工夫
・ 武道ダンスの必修化に向け、地域の指導者と体育担当教員が連携して学習指導を行い、必修化への課題の改善にあたる。

- ・初めて柔道を経験する1年生の女子生徒を対象としているので、学習内容をより精選するために、新学習指導要領に示されている「基本動作を対人的技能と一体に扱う」ことに留意した。

(5) 場の設定の工夫

- ・投げ技の基本となる技の体さばきや受け身との関連から系統的・段階的に取り組むといった計画とした。さらに、投げられる恐怖感を和らげる工夫として、受け身、技の受けについて徹底して低い姿勢から体験させるように配慮した。
- ・指導法の工夫として、思考力・判断力の育成を図るために、抑え込みの条件を基礎知識として学習し、抑え込みと返し方への深い理解と技能の習得をねらいとした。

授業実践：2

(1) 単元名 球技「ハンドボール」(中学2年生)

(2) 授業者 松里中学校 清水佐知子教諭

(3) 授業構想

- ・各種目の特性にふれさせ、豊かなスポーツライフの基礎を培う。
- ・自ら考え、自ら学び、課題解決的な学習を推進する。

(4) 指導形態の工夫

- ・学び合い学習に力を入れ、相互にアドバイスをするように進めさせた。その際に、教師サイドからの発問の仕方が適切なアドバイスに繋がるように工夫した。
- ・ハンドボールの特性からパスに重点を置き、3：2のパスゲームを行った。少人数なので自分の役割をしっかりと意識させプレイさせることができた。

(5) 場の設定の工夫

- ・体育の授業でハンドボールを行う場合、通常だと人数の関係などでグラウンドで行う場合が多いが、体育館で行うことで、より競技の特性に近づけた。
- ・少人数でのパスゲームなど、反面から全面へと段階をおって行った。

III 成果と課題

効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」に視点をあて研究を行ってきたが、学校独自の指導方法や教材の使用、施設の利用など、特色ある授業形態を学ぶことができ、とても充実した研究になった。各校がそれぞれの場の工夫と、さらに学習資料を有効的に活用することで「場」が活性化された。また各校の実践を通しての情報交換をすることで、個に応じた学習形態など、指導法にもフィードバックすることができた。これにより生徒が意欲的に取り組む姿勢にもつながり、とても良い成果が得られた。

今後は、個を生かし、生徒一人ひとりが明確な課題を持って授業に臨むために、生徒自らが基礎レベルをしっかりと把握することが必要になってくる。個や集団の技能習熟に応じて、さらに具体的な課題を設定し工夫した授業展開をしていきたい。

〔部長 上野 基広〕